猪名川町立六瀬幼稚園　令和2年度学校関係者評価書

【教育目標】	豊かな心と健やかな体をもち　生き生きと生活する幼児の育成
めざす幼稚園像	地域に愛され、信頼される幼稚園
めざす子ども像	元気いっぱい遊ぶ子 感性豊かな思いやりのある子 自分で考え行動できる子

学校関係者評価総評

・適切に評価されており、制約が多い中教育目標に関しては成果が出ている。
・小規模な園を強みにしながら、保護者・地域の方々、外部の機関と上手に連携して園運営がなされている。
・今後も少人数の良さを生かした取り組みを一層進化させてほしい。
・少人数ゆえの体験不足解消に向けた交流が今後も大切だ。
・地域との連携、幼小中との交流は六瀬幼稚園の大きな特色なので、引き続いて取り組むことを望む。
・今年度はコロナ禍のため大変な1年だったが、来年度も子どもたちのためにより良い園にしていただけることを切望する。

（A：よくあてはまる　B：ややあてはまる　C：あまりあてはまらない　D：まったくあてはまらない）

（◎適切である　○ほぼ適切である　△あまり適切でない　×適切でない）

評価の観点	評価基準	A	B	C	D	無	AB評価	評価	園の改善方策	自己評価は適切か	改善方策は適切か	学校関係者評価委員の提言
園運営	教育目標「豊かな心と健やかな体をもち、生き生きと生活する幼児の育成」は達成できたか	0%	57%	43%	0%		57%	D	・集団の中で、自分の思いを素直に表現でき、それが受け入れられる仲間づくりに努める。 ・豊かな心と健やかな体を育てることは、就学前の2年間にとって大変重要である。継続して取り組む。 ・今年度は講師を招いての園内活動、園外での様々な体験活動に取り組むことが難しかった。そんな中でも、ある程度は地域特性・特色をいかした活動をすることができた。次年度は、今年度の行事を見直し、園や幼児の実態に見合った内容になっているかを検討したうえで計画を立てる。 ・保護者やボランティア・地域の皆様のご支援・ご協力のもとに成り立っている行事が多い。次年度もご協力いただけるよう、ねらいを明確にし、関係機関との連携を図りながら、取り組みを進めていく。 ・引き続きやりがいのある職場となるよう、職場環境の改善に努め、お互いがカバーしあえる職員体制づくりに努める。 ・園務分掌に偏りがあるという反省が多かったため、次年度は担任の分掌を大幅に減らし、とりわけ行事などの計画を中心にフリーの担当を増やす。 ・少人数の職員であるため、職員間の連携が取りやすい。必要な情報を共有して、より良い保育を実践していく。 ・保護者が相談しやすい雰囲気づくりを大事にする。 ・まず聞くことを優先し、教師から伝えたい思いが先立ってしまわないよう気を配る。	○	○	・教育目標については、社会状況による制約を加味すれば、十分達成できていると思う。 ・D評価の具体的な内容を把握し、今後の改善に期待する。 ・教育目標の達成について、厳しめの自己評価が出されているが、コロナ禍で制約が多く、致し方がないのではないか。とても大切なところなので、来年度も継続してほしい。 ・今年度はコロナによってスタートがうまく切れなかったが、そのため園としての活動自体を大きく見直されたことだと思う。そのうえでできることを進められてきたと感じる。 ・外向けに発信する機会が少なかったため、D評価は仕方ないと思う。 ・保護者目線かもしれないが、フリーで動ける先生は、特別支援の観点からも経験のある方が望ましいと思う。
園運営	園分掌は適切に分担され、運営されているか	29%	43%	29%	0%		71%	B				
園運営	職員間の共通理解、信頼関係に基づいて保育が行われているか	43%	57%	0%	0%		100%	A				
園運営	公簿類の整理及び処理と期日までに行い、関係書類の保存管理を適切に行えたか	43%	57%	0%	0%		100%	A				
園運営	子育てについての相談がしやすい開かれた園づくりができていたか	43%	57%	0%	0%		100%	A				
教育計画 研究推進	研究主題「生き生きと豊かに遊ぶ幼児を育てる～言葉を通した人とのかかわり～」に基づいて課題を明確にし、組織的、計画的に園内研究に取り組めたか	29%	43%	29%	0%		71%	B	・園外での研修会がほとんど中止になり、職員の各分掌・分担で準備していた研修内容が検証できなかった。 ・若手職員（社会人1年目）に対するいわゆる新任研修（臨時職員も含め）が実施されなかったこともあり、初任者を対象に園内で研修を1回行った。 ・日常業務をOJTと位置付けて、園内で若手を育てる研修を指導力の向上につなげたい。 ・保育研修については、教育委員会より講師を招いて「研究保育」を1回行い、貴重な指導助言をいただいた。昨年度実施できなかったので、たいへん有意義であった。 ・令和5年度から始まる「3歳児保育」に向けての研修にも早い時期から取り組まなければならない。	◎	◎	・初任者の育成は、組織として熟成された園で行われるべきではないかと思う。 ・研修の機会も減り、指導力の向上のためには大きなマイナスであったと思う。次年度に負担にならない範囲内での研修の機会があればと思う。
教育計画 研究推進	園内研修や研修会などに積極的に参加し、指導力等資質の向上に努めることができたか	29%	43%	29%	0%		71%	B				
生活・安全 教育環境	危機管理に対する意識をもち、体制作りをしていたか	57%	43%	0%	0%		100%	A	・年間の防犯・防災などの行事を丁寧に取り組み、指導を仰ぎながら園環境に即した危機管理体制の見直しを行う。また、保護者と共に学ぶ機会を設けることで、家庭でも意識を高めてもらう。 ・遊具や用具の使い方については、具体的な場面の中での指導を心がけていく。 ・夏季時期の気温上昇や冬季時期の流行性疾患など、園児の体調管理に留意し、環境調整や保護者啓発、予防活動に努めることができた。次年度も常に意識をもち、留意していく。 ・施設の整備修繕については、管理職を中心に日常の点検に重点を置き、概ね安全・安心につながる環境づくりに努めることができた。 ・今年度は環境整備員の勤務が定着せず、修繕箇所を発見しても、速やかに修繕につなげることができないことがあった。 ・感染症予防対策については、町教委や他園との連絡調整を密に行い、行事の運営に際しても臨機応変に対応する。	◎	◎	・園舎や遊具の手入れなど、職員自ら気を配っている様子がよくわかる。 ・行事の運営等は、園の環境、規模に鑑みて、ソーシャルディスタンスや換気などを工夫のうえ、園独自の判断があってもよいように思う。 ・防犯・防災は、いつ起こるかわからない災害に備えて大切に園でも学ぶことができればと思う。 ・少ない人数の中での施設管理、大変だったと思う。熱中症やコロナ対策は大変ですが、家庭と連携しながら子どもの安心・安全のために頑張ってほしい。
生活・安全 教育環境	遊具・用具の安全な使い方を指導していたか	43%	57%	0%	0%		100%	A				
生活・安全 教育環境	幼児の心身の健康に留意して、健康管理ができたか	57%	43%	0%	0%		100%	A				
生活・安全 教育環境	保健指導や食育指導が実践できたか	43%	57%	0%	0%		100%	A				
生活・安全 教育環境	施設の整備点検、修繕管理ができ、園が生活の場として美しく整っていたか	43%	43%	14%	0%		86%	A				
生活・安全 教育環境	消耗品や水道、電気など意識して節減に努めたか	29%	71%	0%	0%		100%	A				
特別支援教育	特別支援教育コーディネーターを中心に、計画的・組織的に取り組めたか	57%	43%	0%	0%		100%	A	・日常的に教師間で振り返りや交流を行うことで、支援内容が共有化されるため、指導にいかす個別の指導計画の作成が難しい。園の実態に即した活用の仕方を検討し指導にいかす資料の作成に努める。 ・関係機関との連携や具体的な支援の手立てなど、積極的に行うことができた。 ・教育委員会から指導主事を招いて、保護者向け研修会を実施した。好評を得たので次年度についても計画する。 ・子どもの思いと教師のサポートにズレがないか、確認しながら支援する。 ・支援員との情報共有は日常的に行っているが、さらに共通理解を深めるためにも、引き続き「支援の記録簿」に担任が目を通しておくことが大切である。 ・昨年度より、幼稚園の支援体制や指導計画についての保護者理解が進んだので、次年度もアセスメントやコンサルテーションを丁寧に行っていく。	○	◎	・保護者向けの講演はとても有意義だった。普段は見えない指導の工夫や様子、サポートが可視化されるきっかけになります。さらに子どもたち同士も自然なサポートが身につくよう意識させる取り組みを希望します。 ・早期対応ができているのがよいので、続けてほしい。 ・保護者向けの研修会はよいと思う。日々情報交換は大変ですが、大切ですので続けることが子供の成長につながると思う。 ・定期的な外部からの巡回相談も取り入れることで、よりよいアセスメントにつながると思う。
特別支援教育	幼児一人一人の困り感に寄り添った支援を話し合い、必要に応じて「個別の教育支援計画」や「個別の指導計画」を作成し、支援内容の明確化と共有化を図っていたか	43%	57%	0%	0%		100%	A				
保育指導	幼児が興味関心をもつ保育活動や豊かな体験ができる保育環境の工夫ができたか	43%	43%	14%	0%		86%	A	・幼児の実態を把握した環境構成の工夫ができるよう、研修会を設け実践を積み重ねていく。 ・困ったときの発信や気持ちの伝え方など、互いが気持ちよくなる言葉のつかい方に課題があった。CSSTの取り組みは成果が見られるので、次年度も内容を工夫ながら実施する。 ・自分のことを素直に表現できる雰囲気づくりに努める。 ・生活習慣の習得にむけて、園も家庭もともに指導に努める。 ・体力作りは、生活の質を高めるために非常に大切である。リズム運動・わんぱくタイムは、計画的に1年を通じて取り組むことができたので、次年度も一人ひとりの育ちに配慮しながら正しい動きを習得させる取り組みをする。 ・基礎体力や体幹を鍛えるために、普段の生活で使うことが少ない部位を動かすような遊具を工夫する。 ・朝、昼の好きな遊びの時間に、ルールのある集団遊びをさせたいが、少人数のため難しい面があり、定着しにくい。引き続き、来年度に向けて工夫が必要である。 ・動物や鳥を飼育することが、衛生管理上容易ではなくなってきている。できるだけ水生生物の種類を増やし、季節ごとの様子を観察できるようにしたい。 ・餌やり当番活動を継続して行い、園児全員が生き物の世話に関わることを通して生命の大切さを感じさせたい。 ・今年度実施できなかった園内外での体験活動、とりわけ食育体験については、できる限り地域とのつながりを大切にしながら精選し、感染症予防対策を講じたうえで実施できるものを計画する。	○	◎	・CSSTは将来的に3年保育になることを見越して、年少（4歳児）から取り入れてもよいかと思う。人数が少なく限られた環境の中、言葉によるコミュニケーションは比重が大きくなる。 ・食育は六瀬幼稚園の大きな特色です。感染症対策期間のブランクが空いても、六瀬らしい食育を継続してほしい。 ・中学生でも「聞く力」が弱いという課題があります。子どもの発達段階を考えると、「きくきくドリル」などを行い「聞く力」をつけることが必要ではないか。 ・リズム運動や清掃（雑巾がけ）などをしながらの体力づくりは素晴らしいと思う。 ・体力づくり、体幹を意識した運動は継続が大切だと思うので、今後も続けてほしい。 ・草花をはじめ生き物との ふれあいは子どもたちにとって大切な経験です。可能な範囲で、保護者・地域の方々の協力も得ながら、カメなどの世話を続けられるといいなと思う。
保育指導	自分の思いや考えを言葉で伝えたり、話を聞く態度を育てたりするなど、言葉の力の向上に取り組むことができたか	43%	57%	0%	0%		100%	A				
保育指導	あいさつや手洗い、衣服の着脱など幼児の基本的生活習慣の形成に取り組むことができたか	57%	43%	0%	0%		100%	A				
保育指導	遊びを通してルールや約束を守ることの大切さや相手を思いやる気持ちをはぐくむことができたか	43%	57%	0%	0%		100%	A				
保育指導	保育環境などを工夫し、幼児の体力づくりに努めることができたか	43%	57%	0%	0%		100%	A				
保育指導	生き物の世話や植物の栽培を通して生命の大切さを指導できたか	57%	29%	14%	0%		86%	A				
保育指導	一人ひとりの良さやがんばりを認め励まし、個々に合った指導ができたか	43%	57%	0%	0%		100%	A				
保護者・地域 異校種交流	園での出来事や幼児の成長について機会あるごとに伝え、保護者との連携を図ることができたか	43%	43%	14%	0%		86%	A	・徒歩通園とバス通園では保護者と交流できる機会に差があるため、伝え方やタイミングを工夫していく。 ・未就園児との交流活動が計画通りできなかったので、次年度はさらに活動内容を工夫し、取り組む。 ・園運営は地域やPTAのご支援ご協力で成り立っているが、地域の方々の高齢化に伴い頻繁に来園いただくことが難しくなっている。このため支援いただける地域のボランティアを見つけなければならない。 ・次年度は園児数が大幅に減少するため、PTAの組織を含めた活動の見直しが必要になる。 ・幼小中の連携においては幼稚園だけでは学べないことを学ばせてもらっている。年度初めに計画を立案し、ねらいを明確にしさらに共有を図り、取り組む。 ・小学校での体験授業など、就学前の年長児に学校教育の経験をさせることの意義は大きいため、一層深めるための計画を立てる。 ・中学校の再編を見越して、行事だけに頼らない年間を通した連携の仕方を工夫する。引き続き六瀬中学校の畑での栽培を続けること、新たに中学校の図書室にある絵本を使った読み聞かせにも取り組みたい。	○	○	・職員の入れ替わりにより、六瀬エリアの地域の連携が疎遠にならないか気がかりです。 ・園行事を豊かにするため、地域へのアンテナを高く持っていただきたいと思う。 ・幼小中の交流はとても素敵な体験なので、大切にしてほしいと思う。 ・保護者との日ごろからのつながりは大切です。顔を合わせると、その日その時の様子を伝えやすくなります。顔を合わせない保護者には、意識して電話や手紙などで連絡をとると丁寧だと思います。（降園後も忙しいですが）中学校との交流は、来年度1年行いながら、新中学校との交流を模索する1年になるといいですね。
保護者・地域 異校種交流	未就園児と在園児との保育を計画的に実施し、子育て支援に取り組むことができたか	57%	29%	14%	0%		86%	A				
保護者・地域 異校種交流	地域やPTA活動に関心をもち、積極的に参加・協力ができたか	29%	43%	29%	0%		71%	B				
保護者・地域 異校種交流	幼・小・中の連携を、ねらいをもって計画的に推進できたか	14%	57%	29%	0%		71%	B				

評価　A:80%以上　B:70～79%　C:60～69%　D:59%以下